

## 新代表に中村文二氏を選出

### 勇退の黒瀬路線を引き継ぐことに

収まるかと思うとまた新たな変異種が出現して、新型コロナウイルス感染防止対策は日本中を振り回しています。

今年度の総会も上部団体から「出来れば集合形式は避けてほしい」との希望が届いています。役員会は10人程度の少数ですが、総会となると30席は必要になりますので、今年も書面決議となりました。

令和2年度の事業報告と収支の報告、令和3年度の活動計画と予算案、それに役員の人事案を載せた総会資料を6月19日に各会員配布しました。事業報告や収支の報告は既に県土連、山

口市の担当課でチェックをいただき、活動計画については既に5年計画が決められており、それに従うものとなっています。役員人事については、役員会の中でほぼ9年間代表を務めてこられた黒瀬さんから交代の申し出があり、若返りを図る意味から中村文二さんにバトンタッチする案が承認されましたので、それら会員で判断していたためのものです。

6月26日を意見提出の期限としておりましたが、どなたからも議案に対する意見等はありませんでした。従いまして、新代表は中村文二さんとなりました。農事組合法人の役員をはじめ多忙な人物ですが、農業にかける情熱は誰にも負けません。どうか新代表を中心とした八方原の環境を守る会をよろしくお願いいたします。

6月19日は例年なら八方原振興会議を開催するところですが、感染予防のために各団体に書面による要望の提出をしていただき、話し合いの代わりにとさせていた

できました。  
事業所方々からは洪水対策の強化についての強い意見がありました。また老人クラブからは、公民館のエアコン設置の要望が出されました。

### 公民館のエアコン設置 着工不可避

洪水対策については従来通りの機動的な運用が重要になります。公民館のエアコン設置については、必要に迫られてるとの判断から、自治会執行部では決断をせざるを得ない状況であると考えています。

八方原自治会 会長 原田 哲夫

## ・・・水田に夕焼けが映り込む不思議な一瞬・・・



田植えのために代掻きが終わった日の夕暮れ。風のない夕暮れに見ることのできる絶景です。今年は6月16日の夕刻に、絵に描いたような「夕焼け」が数十分だけ訪れました。



刈り取った草を集めて、集積の場所に運ぶのはかなりの重労働

市道八方原森下線の除草清掃作業を中心にした市からの受託事業が年2回行われます。6月20日に今年度の第1回が実施されました。班別に作業をしますが、参加人数が

### 道端の雑草管理は地域の顔

山口市立上郷小学校

## 「田植えを見せてください」



3クラス100人が歩いてやってきた

今年も上郷小学校2年生が、田植えの見学にやってきました。地域のことを知る、地域の自慢を知る。今の子どもたちは自分の「まち」のことをよく知りません。農地で行う「田植え」の作業を見ることは、お米がどうやって育てられるのかを知るだけでなく、水田の色や匂い、農業機械の音やその動きを実際に見ることが出来ます。それらがみな、彼らの記憶の中に積み重なり、彼らの自信に変わります。実際の体験こそ貴重です。

それぞれ異なるので、参加者の状況を見ながら作業範囲を決めていきます。

今回の参加者は48名でした。総延長は1000メートル以上になります。しかし作業延長は2倍になります。しかし日常的に整備されているところもあり、作業負担の少ないところもありました。1時間にも満たない作業で、とてもきれいになりました。

### ふしの踊りと小郡音頭

2年続けてふしの夏祭りが中止となり、小郡総踊りの実施ができません。踊り振興会では、正しい踊りを伝えるようにDVDを作成することにしました。

農事組合法人八方原

## 麦の収穫と稲の植え付けに大忙し



土壌を細かく粉砕する、「代掻き」

5月から6月にかけては農事組合法人八方原にとって、とても大事な忙しい季節です。麦の収穫が5月末ですが、その1週間前には早生の田植えがありました。麦の収穫が終わると、すぐさま圃場の耕耘が始まります。直前まで麦畑だった場所が、次々に稲作用に耕されていきます。農業用水の汲み上げが本格的に始まると、次々に水田に変わります。



▶3.6m幅のハローを牽引する  
▲コンバイン3台が一度に稼働  
大型田植え機に数人がサポート▼

作業が本格的になります。6月17日からの田植え作業は、一番広範囲の15ヘクタールです。そしてすぐさま最後の6ヘクタールの耕耘と代掻きに移ります。最後の田植えが始まったのが、6月

小郡南小学校が開校三十周年  
一昨年は上郷小学校が開校四十周年をお祝いしました。小郡小学校は令和6年には開校百五十周年を迎えることになるということです。明治3年に信光寺で始まったという歴史があります。



25日、大型田植え機が圃場に入り、あつという間に植えつけます。